

「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」
分野別アウトカム指標及び最終アウトカム指標について

次期計画における分野別アウトカム指標（案）について

【参考資料5】

次期計画における分野別アウトカム指標は下表のとおりとする

| 分野 | 大項目 | 分野別アウトカム指標（案） | 基準値 | 目標値 | 出典 |
|--------------|------------------------|---|------------------------|-----|------------------|
| I 予 防 | 1 がんの一次予防 2 がんの二次予防 | がん種別年齢調整罹患率（胃） | 37.8 （令和元年） | 減らす | 全国がん登録 |
| | | がん種別年齢調整罹患率（大腸） | 62.5 （令和元年） | 減らす | 全国がん登録 |
| | | がん種別年齢調整罹患率（肺） | 44.1 （令和元年） | 減らす | 全国がん登録 |
| | | がん種別年齢調整罹患率（乳（女性）） | 111.9 （令和元年） | 減らす | 全国がん登録 |
| | | がん種別年齢調整罹患率（肝） | 13.3 （令和元年） | 減らす | 全国がん登録 |
| | | がん種別年齢調整罹患率（子宮頸部） | 11.4 （令和元年） | 減らす | 全国がん登録 |
| II 医 療 | 1 がん医療提供の充実 | がんの診断・治療全体の総合評価（平均点） | 8.3 （平成30年度） | 増やす | 国立がん研究センター患者体験調査 |
| | | 望んだ場所で過ごすことができた患者の割合 | 51.8% （令和元年度・令和2年度） | 増やす | 国立がん研究センター遺族調査 |
| | 2 切れ目のない緩和ケアの提供 | 日常生活をがんにかかる前と同じように過ごすことができていると回答した患者（手術や薬の副作用などはあるが、以前と同じように生活できていると回答した人を含む。）の割合 | 66.8% （令和4年度） | 増やす | 東京都がんに関する患者調査 |
| | | 望んだ場所で過ごすことができた患者の割合（再掲） | 51.8% （令和元年度・令和2年度） | 増やす | 国立がん研究センター遺族調査 |
| | 3 小児・AYA世代のがん医療に特有の事項 | 若年がん患者のがんの診断・治療全体の総合評価（平均点） | — （新規項目） | 増やす | 国立がん研究センター患者体験調査 |
| | | 小児がん患者のがんの診断・治療全体の総合評価（平均点） | — （新規項目） | 増やす | 東京都小児がんに関する患者調査 |
| | 4 高齢者のがん医療に特有の事項 | がんの診断・治療全体の総合評価（平均点） | 8.3 （平成30年度） | 増やす | 国立がん研究センター患者体験調査 |

次期計画における分野別アウトカム指標は下表のとおりとする

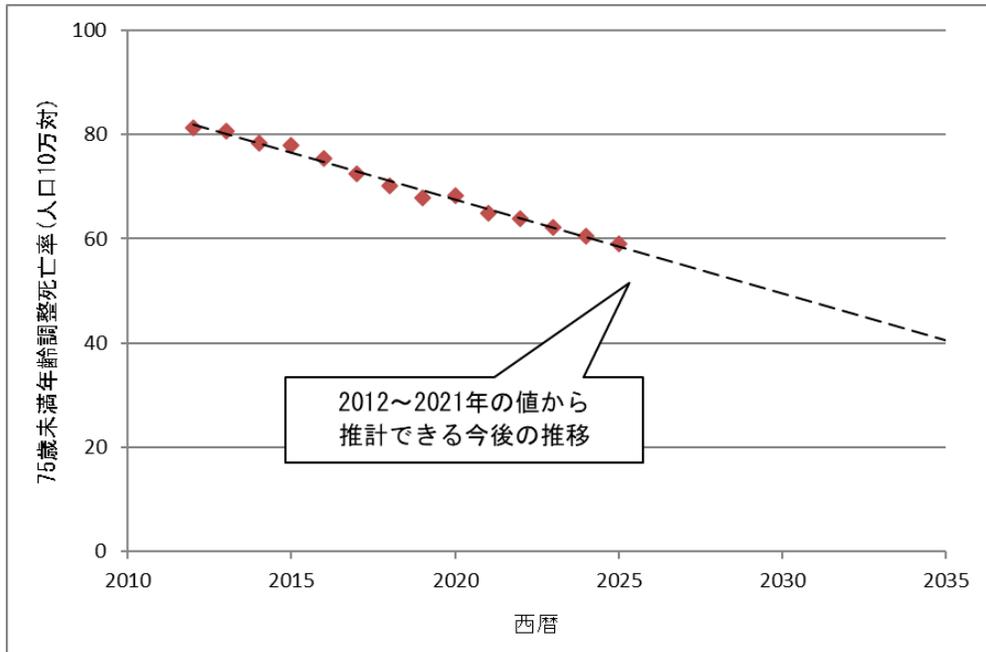
| 分野 | 大項目 | 分野別アウトカム指標（案） | 基準値 | 目標値 | 出典 |
|--------------------------|---|---|-------------------|---------------|----------------------------------|
| Ⅲ 共生 | 1 相談支援の充実 | 精神心理的苦痛を抱えるがん患者の割合* （*「がんやがん治療に伴い、気持ちがつらいですか」の問に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した患者の割合を100から引いたもの） | 36.8% （平成30年度） | 減らす | 国立がん研究センター患者体験調査 |
| | 2 情報提供の充実 | 必要な情報を十分に得られていると感じるがん患者の割合 | — （新規項目） | 増やす | 東京都がんに関する患者調査 東京都小児がんに関する患者調査 |
| | 3 社会的な問題 への対応 | がん罹患後も仕事を継続しているがん患者の割合 | 65.4% （令和4年度） | 増やす | 東京都がんに関する患者調査 |
| | | 精神心理的苦痛を抱えるがん患者の割合 | 36.8% （平成30年度） | 減らす | 国立がん研究センター患者体験調査 |
| 4 ライフステージ に応じた患者・家族支援 | 日常生活をがんにかかる前と同じように過ごすことができていると回答した患者（手術や薬の副作用などはあるが、以前と同じように生活できていると回答した人を含む。）の割合 | 66.8% （令和4年度） | 増やす | 東京都がんに関する患者調査 | |

次期計画における最終アウトカム指標は下表のとおりとする

| 分野 | 大項目 | 最終アウトカム指標 | 基準値 | 目標値 | 出典 |
|----|-----|---|------------------|------------------------|------------------------|
| — | | がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人対） | 65.0 （令和3年度） | 減らす （54.7未満） | 国立がん研究センター がん情報サービス |
| | | 日常生活ががんにかかる前と同じように過ごすことができていると回答した患者（手術や薬の副作用などはあるが、以前と同じように生活できていると回答した人を含む。）の割合 | 66.8% （令和4年度） | 増やす | 東京都がんに関する患者調査 |

「がんの75歳未満年齢調整死亡率」の目標設定について

計画最終年度に把握できる75歳未満年齢調整死亡率の推計



第二次改定時では、都独自に科学的根拠に基づく目標値を設定することはできないため、「これまでの取組を反映した上で、さらに、今後様々な施策を進めがん対策を加速化することにより、推計した67.9未満とする」と設定した。

第三次改定においても、上記の考え方を踏襲し、死亡率に関する指標は以下のとおりとする。

**がんの75歳未満年齢調整死亡率：人口10万対
→減らす（54.7未満（R10年））**

「がんの75歳未満年齢調整死亡率」の目標設定の考え方

西暦(x)、75歳未満年齢調整死亡率(y)として、2012～2022年の値（直近10年間）の東京都における75歳未満年齢調整死亡率を対数線形回帰による計算式にすると、以下のとおり表せる。

$$y = \exp(-0.025808249x + 56.34039493)$$

このxに、例えば、2028（計画最終年度の2029年に把握できる最新の西暦）を代入すると、以下のとおりとなる。

$$y = 54.7 \text{（小数点第2位四捨五入）}$$

⇒ 計画最終年度に把握できる令和10(2028)年の推計値は、54.7となる。

※ 令和10年の年齢調整死亡率について、現時点では、2012年～2021年の値（直近9年間）の数値を基に推計している。2022年分の年齢調整死亡率の公表後、公表された数値を基に、令和10年の数値を再度推計し、目標値を差し替える予定。

■ 東京都における75歳未満年齢調整死亡率の後年度推計

| 和暦 | 西暦(x) | 75歳未満 年齢調整死亡率(y) |
|-----|-------|---------------------|
| H24 | 2012 | 81.362 |
| H25 | 2013 | 80.642 |
| H26 | 2014 | 78.399 |
| H27 | 2015 | 77.919 |
| H28 | 2016 | 75.463 |
| H29 | 2017 | 72.425 |
| H30 | 2018 | 70.270 |
| R1 | 2019 | 67.872 |
| R2 | 2020 | 68.316 |
| R3 | 2021 | 64.967 |
| R4 | 2022 | 63.8 |
| R5 | 2023 | 62.2 |
| R6 | 2024 | 60.6 |
| R7 | 2025 | 59.1 |
| R8 | 2026 | 57.6 |
| R9 | 2027 | 56.1 |
| R10 | 2028 | 54.7 |
| R11 | 2029 | 53.3 |

